

## 計算リソースについて

経済産業省 商務情報政策局

助成対象となる計算リソースは、NVIDIA 社製 H100 GPU を 8 基、GPU メモリを計 6 4 0 G B 搭載した GPU ノード、および付随するネットワーク、ストレージサービス等の形態で提供される。資源配分の効率化・合理化のため、利用可能な全 GPU ノードを数量・期間でブロックに分割し、そのブロック単位で開発企業等に提供することとする。

提案者は、助成対象となる計算リソースの数量と利用期間について、以下のスロット A から C から選択することとする。なお、このスロットを超えて計算リソースを利用して開発を実施することは妨げないが、それについては原則、助成の対象外となる。ただし、より高い開発目標等を目指すため、このスロットを超えて計算リソース利用の助成を希望する場合には、その計算リソースの数量（上限は 1 0 0 ノードとする）を提案書に記載するとともに、その場合の開発内容や目標等を提案書の様式に沿って記載すれば、審査の結果によってはその希望の範囲内で認められる可能性がある。ただし、助成対象となる計算リソースの利用期間を変更することはできない。

スロット A 数量：5 0 ノード 期間：研究開発全期間（6 ヶ月）

スロット B 数量：3 2 ノード 期間：研究開発期間の最後 2 ヶ月

スロット C 数量：3 1 ノード 期間：研究開発期間の最後 2 ヶ月

（※）ただし、割り当てられる数量とスロット B と C の時期については、審査等の結果、変更になる可能性がある。

計算リソースを提供するクラウドベンダーと、提案書の記入にあたって使用する仮単価（GPU ノード以外の計算リソースに係る費用や為替変動への対応費用分として、GPU ノードの想定費用に 1 0 パーセントを上乗せした、ノードあたりの月額単価）は以下のとおりとする。

提供クラウドベンダー/GPU ノードの種類：Google Cloud/A3 VM （※）

参考：<https://cloud.google.com/blog/ja/products/compute/introducing-a3-supercomputers-with-nvidia-h100-gpus>

（※）ただし、場合によっては異なるクラウドベンダーのサービスを利用いただく可能性がある。

仮単価：1 4 [百万円/ノード・月]

（参考）採択時における補助対象経費の上限額の決定方法

補助対象経費の上限額は、原則として、計算リソースの本単価（GPU ノードの実勢価格に 1 0 パーセントを上乗せしたノードあたりの月額単価）と助成対象となる計算リソース量（数量と期間の積）の積で算出する。

ただ、助成対象分を超えて利用する場合で、以下の計算式で算定された金額（Y）が補助対象経費の上限額を下回る場合には、その価格（Y）を補助対象経費の上限額とする。

$$Y = X \times \frac{m \times t}{M \times T}$$

$X$  : 実際の契約額

$M$  : 契約上の計算リソースの数量  $T$  : 契約上の計算リソースの利用期間

$m$  : 助成対象となる計算リソースの数量  $t$  : 助成対象となる計算リソースの利用期間

なお、 $M$ については、H100以外のGPUも併せて使用する場合には、計算能力に応じた適切な換算値を用いて、H100相当のGPUノード数に換算した上で算出する。

以上